

(様式第3号)

令和5年11月28日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会 派 名 日高見会

代表者名 会長 星 雅俊

調 査 報 告 書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 星 雅俊、阿部 和芳
- 2 調査期間 令和5年11月20日から
令和5年11月21日まで 2日間
- 3 調査地 (1) 岩手県盛岡市
及び調査内容 ・スポーツコミッションによる課題解決と実績について
(2) 岩手県紫波町
・公民連携による図書館を中核とした地域活性化の取り組みについて

4 調査目的

(1) 岩手県盛岡市

テーマ「スポーツコミッションによる課題解決と実績について」

盛岡のまちづくりは、今からおよそ400年前の慶長年間、南部家26代信直公が北上川と中津川が合流し丘陵に囲まれた不來方の地に築城したことから始まった。城下町は町割りを五の字にして、城を二重の外堀が巡り、商家や職人町が囲み、その外側に侍屋敷などを配置したもので、当時としては新しい考え方に基づく城下町の軍事や商業、交通などに配慮した環状市街地の道路形状が行われた。近年の盛岡市は、1989年に市制施行100周年を迎えるとともに、1992年4月には新しい中核都市の形成を標榜し南に隣接する都南村と、2006年1月には北に隣接する玉山村と合併を果たし、人口約30万人、面積886.47平方キロメートルの新生盛岡市が誕生した。盛岡広域8市町(盛岡市、八幡平

市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町)では、相互に連携・協調してスポーツツーリズム等の取組を通じた盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を図る組織として、平成 29 年 3 月に盛岡広域スポーツコミッションを設立した。施設の視察を行うことで、今後の本市のスポーツによる交流人口の拡大、地域スポーツの推進等の参考とする。

(2) 岩手県紫波町

テーマ「公民連携による図書館を中核とした地域活性化の取り組みについて」

紫波町は昭和 30 年に 1 町 8 カ村が合併し誕生しました。岩手県のほぼ中央、盛岡市と花巻市の間位置し、北上川が中央を流れ、東は北上高地、西は奥羽山脈までの総面積 238.98 平方キロメートルの町で、国道 4 号など 6 本の幹線が町を南北に走り、インターチェンジや 3 つの駅があるなど交通の便に恵まれている。紫波町では、紫波中央駅前の都市整備を図るため策定した「紫波町公民連携基本計画」に基づき、公有地活用型 PPP(Public Private Partnership)手法により、平成 21 年度から「オガールプロジェクト」として、公民連携による紫波中央駅前の町有地を活用した経済開発を進めている。紫波町図書館の視察を行うことで、公民連携による図書館を中核とした地域活性化の取り組みを本市事業推進の参考とする。

5 調査概要

(1) 岩手県盛岡市

盛岡広域スポーツコミッションは、盛岡広域 8 市町（盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町）で、相互に連携・協調してスポーツツーリズム等の取組を通じた盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を図る組織として、平成 29 年 3 月に盛岡広域スポーツコミッションを設立した。その後の経過、事業・予算内容について担当の坂下さんにご説明いただいた。石巻市でも 2,700 万円でスタート。何とかうまく運営が出来るようにしたいが、いろいろ課題も有り厳しそうだ。

テーマ：「スポーツコミッションによる課題解決と実績について」

講師：盛岡広域スポーツコミッション事務局 主幹 坂下 剛

(盛岡市交流推進部スポーツ推進課 スポーツツーリズム推進室 室長)

○事業概要

(設立経過)

- ・平成 25 年 3 月 盛岡市スポーツ推進計画 (H25～34)
「スポーツコミッション等の新たなスポーツ推進体制の構築を検討」
- ・平成 25 年 9 月

設立年月日 平成 29 年 3 月 28 日

構成団体 3市5町の盛岡広域

(単位：円)

自治体名	人口(人)	組織負担金 R5
盛岡市	282,960	890,000
八幡平市	23,975	148,000
滝沢市	55,273	197,000
雫石町	15,563	134,000
葛巻町	5,606	118,000
岩手町	12,133	129,000
紫波町	33,941	162,000
矢巾町	26,570	152,000
計	455,121	1,930,000

① 目的

国体・希望郷いわて大会を引き継ぎ、スポーツツーリズムの取組を通じて「盛岡広域圏」の魅力の発信と賑わいの創出を図る。

② 概要

(組織)

理事会—— 会長：盛岡市長 理事：7市町の長

専門委員会—— 総務企画専門委員会 *各市町の体育協会、盛岡商工会議所、プロスポーツ団体、大学、盛岡観光コンベンション協会
各専門部会（必要に応じて）

幹事会*各自治体の事務担当者

事務局：盛岡市（スポーツツーリズム推進室）

事務局長：交流推進部長

参事： // 次長

主幹：スポーツ推進課長

// 補佐

スポーツツーリズム推進室長

事務局員：スポーツツーリズム推進室員

(意思決定及び役割)

○意思決定は、理事会が行う。(幹事会の議論を踏まえ全会一致が原則)

○各自治体の取組の内、広域的に関することにより効果が高まると思われるものについて、連携・協力・支援を行う。

③ スポーツコミッションの基本的施策

(ア) スポーツによる交流人口の拡大

- ・ 全国大会等の大規模大会・合宿の誘致・・・情報の共有、複合的な魅力のアピール
- ・ 構成団体が行うイベント・・・特産品の提供
- ・ スポーツパル制度の拡充・・・WEB 情報発信、LINE 活用の登録・ポイント管理

(イ) 地域スポーツの魅力向上

- ・ 各種媒体活用の情報発信・・・広域圏のスポーツ施設・イベントの発信・・・新イベント誘致・シビックプライド醸成
- ・ プロスポーツと連携・支援・・・地元プロチームの賑わい創出・一体感の醸成
- ・ トップアスリート応援・・・エイト・オリンピックズ・PJ

(ウ) 広域的なスポーツツーリズム推進

- ・ 広域的なスポーツツーリズム推進・・・ストック適正化指針でスポーツ施設の適正配置
- ・ スポーツツーリズム商品開発に関する調査・研究
- ・ スポーツツーリズム推進にかかる調査・研究

④ 主な取組と成果

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプにおける情報共有
- ・ 情報発信（WEB・SNS）
- ・ 住民参加システムの構築「スポーツパル」
会員登録スポーツ施設利用やボランティア活動でポイント貯め景品交換。
- ・ イベント支援・・・特産品セットの提供
- ・ プロスポーツの支援・・・ボランティア募集

⑤ その他の取組

- ・ スtock適正化指針策定・・・データベース化による課題や役割認識共有化
- ・ スポーツツーリズムの方向性の共有
- ・ スポーツツーリズム施設に望まれる機能の明確化
- ・ 施設の広域的補完・連携の明確化

⑥ 今後に向けて

- ・各自治体の自立性の尊重・・・コミッションは、自治体の施策を後押し
- ・実感の伴うメリットの創出・・・知名度・交流人口の拡大・特産品の販売促進
「経済波及効果」
- ・地域の魅力向上への貢献・・・帰属意識（誇り）、一体感移住・定住へのインセンティブ
大会・合宿誘致、プロスポーツとの連携

⑦ 予算関係

令和5年2月 予算 1,930,000円（但し、事務局人件費は、盛岡市負担）

令和4年度決算 2,272,714円

各構成自治体の主催事業の支援等であり、コミッションの主催事業はない。



(2) 岩手県紫波町

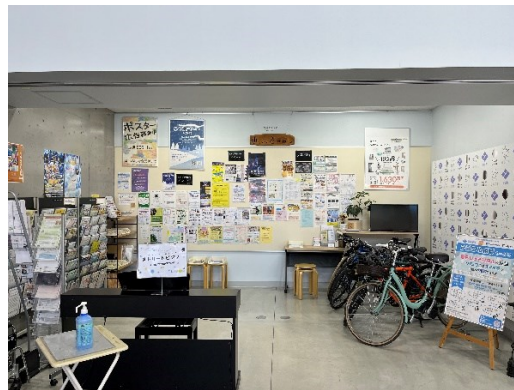
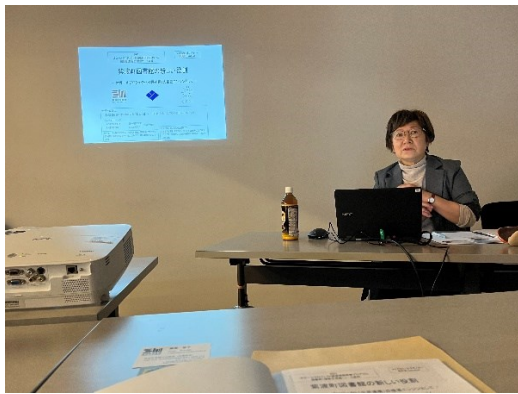
テーマ：「公民連携による図書館を中核とした地域活性化の取り組みについて」

講師：紫波町情報交流館長(図書館長) 藤尾智子

1955年（昭和30年）に1町8カ村が合併し誕生した紫波町。盛岡都市圏の南部、盛岡市と花巻市の間に位置する。中央部を北上川が流れ、東側には北上高地、西側には奥羽山脈が聳える。国道4号など6本の幹線が町を南北に走り、インターチェンジや3つのJRの駅がある。面積238.98km²、人口31,906人。近年は、オガールプロジェクトをはじめとした「公民連携によるまちづくり」で注目を集めている。オガールプロジェクトとは、都市と農村の暮らしを「愉しみ」、環境や景観に配慮したまちづくりを表現する場にあること理念にしている。



「町民の資産」である町有地を活用して、公民連携手法を用いながら財政負担を最小限に抑え、公共施設整備と民間施設等立地による経済開発を進めている。そもそも、紫波町は、JR紫波中央駅前の町有地 10.7ha を中心とした都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を伺い、平成 21 年 3 月に議会の議決を経て紫波町公民連携基本計画を策定した。この基本計画に基づき、平成 21 年度から紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）が始まった。



平成 19 年 4 月 公民連携の推進に関する学校法人東洋大学と紫波町との協定書締結し、8 月 紫波町 PPP 可能性調査報告書（東洋大学大学院公民連携専攻作成）、平成 21 年 2 月 紫波町公民連携基本計画策定、3 月 都市再生整備事業（紫波中央駅前地区）策定、6 月 オガール紫波株式会社設立、6 月 紫波町オガール・デザイン会議設置、平成 22 年 3 月 オガール・デザインガイドライン策定、平成 23 年 4 月 岩手県フットボールセンター 開場、平成 24 年 6 月 官民複合施設オガールプラザ オープン、8 月 紫波町図書館 開館（オガールプラザ内）、平成 25 年 10 月 オガールタウン日詰二十一区 宅地分譲開始、平成 26 年 6 月 エネルギーステーション 完成、7 月 民間複合施設オガールベース オープン、平成 27 年 5 月 紫波町役場新庁舎 開庁、平成 28 年 12 月 民間複合施設オガールセンター オープン、平成 29 年 4 月 オガール保育園 開所。朝の散歩で 7 時 30 分過ぎから子ども保育所に連れて来る親御さんを見て一点集中のまちづくりに官民連携の仕組みを実行したリーダーと関係者に敬意を表したい。



さらに、オガールには、8種の飲食店や7つの販売店の他に、3つのクリニック、2つの体育館、ホテル、図書館、町役場、サッカー場、スポーツジム、美容院、複数のレンタルスペース、様々なサービス業などの入った複合的な施設についてご案内いただき、この施設で人々が集まればできることは無限大。中央には芝生の広場があり、ひとつのまちのように沢山の交流が生まれて、育っていく、まさにオガールだ。

公民連携で地域再生を進めるこのオガールプロジェクトなど様々なプロジェクトが動く町のコミュニティづくりの核となっているのが、オガールプラザ内にある紫波町図書館。ここが、地域コミュニティの醸成や課題解決の支援など、まちづくりの基盤となっている図書館。既存の概念から外れた新しい図書館像で、「子どもたちと本をつなぐ」「地域に関する資料を網羅的に収集・保存する」「紫波町の産業支援をする」の3つが運営方針となっている。町内をまわり情報を集め、そこから課題を見つけ出ししていく。各種規格イベントで選書を行い、多角的な手法で情報発信していく。まさに、「知りたい」「学びたい」「遊びたい」に応え支援していく図書館だ。館長をはじめ職員のサービス努力は、公と民の融合。各種コーナーも丁寧にご説明いただいた。





6 所感及び石巻市への政策提言等について

(1) 岩手県盛岡市

スポーツコミッションの目的は、スポーツ施設を活用し、交流人口増の地域経済活性化と市民の健康増進を図る事と主に2つの目的とされる。

「地域スポーツコミッション実態調査：(スポーツ庁R2. 2月実施)によると、

- ・スポーツ庁認定の118団体
- ・(一財)日本スポーツコミッション(SCJ)の登録団体 重複除き119団体の調査
- ・結果

組織：行政主導の組織 43%

活動内容：合宿誘致71.6% イベント誘致62.7% 健康維持 20.6%

主な収入源：行政からの運営補助金 53.9% 会費収入 23.5%

年間事業費：100万円～999万円 45% 1000万円～9999万円 28%

盛岡市の基本方針は、「コミッションの主催事業はしない」としており、理由は、イベント誘致には自治体間競争があり、費用が掛かりすぎる事と、公務員(兼務)の立場では活動しにくい面が生じるためとのこと。

スポーツ庁の実態調査結果からも、主に交流人口増加を目指している自治体は、全体の約70%、約80団体があるが決算収支は、赤字団体が多く、自治体の補助金への依存体質は拭えない。

本市の「スポーツコミッション」に置いても、留意する箇所は、

- ① 主目的である交流人口増加は、その効果としての経済影響額は、数字で明示し、市補助金を出す価値があるのか検証が必要ではないか。

イベントや合宿誘致には、NPO 体協（野球、サッカー、ラグビー、陸上単協等）と S C の共同体制の確立が必要であり、各単協の誘致目標人数を把握し、全国他団体との過当競争になる事は避け、身の丈にあった予算での運営体制が必要ではないかと思慮する。

- ② 陸上競技場の建設にあたっては、現在の運動公園の稼働率や利用人数など利用状況を精査し、施設規模と建設方法もバブル的な発想でなく、小規模からの段階整備も含めランニングコストにも留意すべきである。

- ③ 市民の健康増進策として、具体的な事業を構築必用。

石巻市の運動公園は、三陸縦貫自動車道 I C が近く、宮城県北東部の拠点としての位置は申し分なく、競技によっては、宮城県の中心施設となるものもある。

大会・合宿誘致には、各スポーツ単協の独自人脈等の人的協力は欠かせないため、スポーツコミッション立上げ初年度（R 5）から関係者の行政任せの協議にしない事が求められるのではなかろうか。

（2）岩手県紫波町

「町民の資産」である町有地を活用して、公民連携手法を用いながら財政負担を最小限に抑え、公共施設整備と民間施設等立地による経済開発を進めた町長のリーダーシップ、町民に幾度も説明会を開きご理解いただいたほかに駅の誘致とまさに敬意を表す。コンパクトなまちづくりと民の協力をいただきオール紫波町が感じられた。石巻市の図書館を中心としたまちづくりには、しっかりとした運営方針や人口減少を踏まえてまちづくりの核として公民連携を模索すべきだと提言したい。

7 調査経費 68,928円

8 添付書類 別添資料のとおり